

はくあい

H A K U A I

発行所:博愛社/〒532-0028 大阪市淀川区十三元今里3丁目1-72/TEL06-6301-0367 FAX06-6301-5347
ホームページアドレス <https://hakuaisha-welfare.net>

この春 3人が『わくわく』を卒業します



好きなポケモンで
色々な事に挑戦
中!



マスクをつけられ
るように好きな
キャラクターで練
習中!

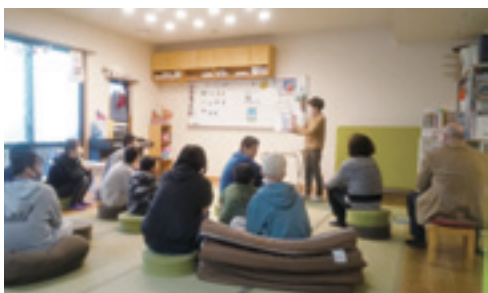


電車大好きM君

巣立ち

【児童デイサービスわくわく】

今日も『わくわく』の子どもたちは元気いっぱいです。一人一人個性豊かで、電車大好き、虫が大好き、ポケモン大好き：好きなものに囲まれて、彼らは毎日が生き活きと笑顔に溢れ、支援者も自然と笑顔でいっぱいです。



読み聞かせボランティアのキャベツくん



ダブルダッチのイベントの開催!

電車大好きM君は紙と鉛筆、定規があれば完成度の高い電車のクラフト作品を仕上げます。1台1台電車にも顔があり、彼の愛情が詰まった作品は親友です。小学生から通っている彼も、この3月で高校とともに『わくわく』も卒業

です。これからも沢山の電車の仲間達と共に成長される事と思います。彼の作品を見てみたい方は是非、遊びに来てください。

2015年4月に開設した『わくわく』も2022年4月からは8年目に入ります。これからも子どもたち・保護

者にとって安心できる居場所として、自然豊かな博愛社の広い敷地と多くの関係者の見守りのある中で、子どもたちの沢山のチャレンジ、小さな一歩を大切に仲間・支援者と共に皆で褒め・喜び合い、一人一人の輝ける明日へのステップの為に、寄り添い・見守り支援していきたいと思えます。

【中井 朋子】

博愛社後援会会費

- ▽個人 1口 3千円
- ▽法人 1口 1万円
- いずれも年会費で、
- 期間は4月～翌年3月
- ▽郵便振替口座番号
- 0092074676
- ▽口座名義
- 社会福祉法人 博愛社

四季折々

「一月往ぬる二月逃げる三月去る」

令和4年も早1カ月が経ちました。1月から3月は、1年の中で人生の節目となる出来事（受験、卒業、定年退職、入学、就職など）が多く、その準備などで慌ただしく過ぎ去っていく期間ではないでしょうか。

新年元旦に今年の目標や願い事を考え、新たな気持ちになるものです。施設で生活されている入居者の皆さんにもお正月の雰囲気味わって頂こうと正月飾りを見て頂いたり、お雑煮、おせちを召し上がって頂きました。ある入居者の方に「今年の願い事はなんですか？」とお聞きすると「病気や怪我をせず、健康で元気に過ごしていきたい、それだけです。」と応えてくださいました。私達は、その願い事が叶うように日々入居者の皆さんに寄り添いながら介護ケアをさせて頂くことが、新年にあたっての今年の目標であり願い事があります。

今年一年、笑顔がたえない毎日を過ごし、全ての皆さんに幸せがありますように。

【サテライト特養清心館 宇野豊】

『立派な佇まい』

【特養博愛の園】

昨年末に園芸ボランティア「サルビア」さんが門松を制作してくださいました。普段は、園庭に季節のお花を育て、屋上では畑でネギやダイコン、ジャガイモなどを育てて収穫していただきます。近年、コロナ禍で活動が制限される中、今年も博愛の園の冬の風物詩

となった門松を鑑賞できる事になり、嬉しく思います。その門松は、立派な佇まいで皆の目を引くと共に魅了されま

す。
また、現在サルビアさんは、メンバー募集されています。それに伴い、門松づくりの様子を密着して募集動画を作りました。博愛社のホームページの「お知らせ」からリンクして頂きます。是非ともご覧いただければ幸いです。
【坂本 康一朗】



手際よく3人で門松を制作

寄付寄贈のお礼

【児童養護施設博愛社】

新型コロナウイルスの感染がようやく落ち着き、子ども達も普段の生活に戻りつつあった年末に、今年度も多くの企業、個人の皆様からご寄付ご寄贈を頂きました。この場をお借りして心より感謝申し上げます。

クリスマス・お正月にかけて、たくさんのお菓

子やプレゼントが届き、子ども達は大喜びでした。特にクリスマス

ケーキは人気が高く、毎年どんな

ケーキが届くのか職員

も含めワクワクしてい

ます。素敵



素敵なケーキが届きました

新型コロナウイルスのなケーキを子ども達は元気がいっぱい頬張っていました！いただいたお菓子も年末年始のおやつにさせていただきます。まだまだコロナウイルスは終息の心配がありませんが、子ども達が安心して暮らせる様スタッフ一同努めてまいります。
【多々納 幸子】



落ち葉のシャワー

園内の各地に遊び場があり、ドングリや綺麗な落ち葉を拾いながら散策した子ども達のお散歩バッグはパンパン！金色の落ち葉のシャワーに、葉っぱで作るお面：沢山の秋の自然に触れました。見上げるほどの大きな遊具

秋の遠足 万博記念公園 【博愛社こども園】



遠足を思い出しながら観察

秋晴れの中、指折り数えて楽しみにしていた遠足に行ってきました。子ども達の目にもまずとまったのは、大きな太陽の塔でした。「大きいね」「ちよっとこわいね」「なんで顔2つあるん？」と思いに話していました。園内の各地に遊び場があり、ドングリや綺麗な落ち葉を拾いながら散策した子ども達のお散歩バッグはパンパン！金色の落ち葉のシャワーに、葉っぱで作るお面：沢山の秋の自然に触れました。見上げるほどの大きな遊具

【近藤 彩理佳】

あの頃、何してた？ 「太陽の塔」 模型展示 【特養 博愛の園】

博愛の園の玄関にひときわ目立つ存在感で、太陽の塔の模型（高さ1m）が展示されました。これは以前入居されていた渡邊様の息子様の手作

りをお借りしたものです。当時のパビリオンの写真集もお借りし、それを見ながら51年前に開催された万博当時の頃を思い出して、入居者の皆さんの万博談議に花が咲きました。生まれていなかった職員も多く、当時の様子のことを興味津々に聴く姿も見られました。

また、博愛社こども園の園児達は秋の遠足で見たところなので、とても嬉しそうに眺めていました。

2025年の大阪万博が今から楽しみです。
【坂本 康一郎】



あの頃の思い出話に花が咲く

「卒園児の同窓会」 【こひつじ乳児保育園】

毎年、小学2年生までの卒園児を迎えるの同窓会を行っています。去年度は前年度の卒園児のみの開催となりました。

今年度はコロナ禍の中でもどうか開催することは出来ないかと、いろんな案を提案しながら話し合いを繰り返して、保護者の方とも繋がっていた気持ちから、10月30日（土）

に学年ごとに短時間で大園庭での開催をすることにしました。久しぶりに会う子ども達と、どんなことを楽しく過ごそうかと考え、コイン落としや、輪投げなど、みんなが参加しやすいゲームで楽しく過ごすことにしました。

【早瀬 佳美】



懐かしいあの頃に戻って

今年度はコロナ禍の中でもどうか開催することは出来ないかと、いろんな案を提案しながら話し合いを繰り返して、保護者の方とも繋がっていた気持ちから、10月30日（土）

子ども達との触れ合いはもろろん、保護者の方とは近況報告を聞くこともでき、開催して良かったと思えました。コロナ禍で行事などを見直しをする機会が増え、今まで

笑顔になれる イルミネーション

【博愛社グランドデザイン2020】

「博愛社グランドデザイン2020」にはプロジェクト3本柱があり、そのうちの一つ「笑顔になれる場所拡大プロジェクト」に「冬のイルミネーション」があります。以前から12月になると本館のマリア像の壁面にイルミネーションが施されており、今年からは博愛社こども園の正門付近においても新たに追加されました。

「博愛社グランドデザイン2020」にはプロジェクト3本柱があり、そのうちのひとつ「笑顔になれる場所拡大プロジェクト」に「冬のイルミネーション」があります。以前から12月になると本館のマリア像の壁面にイルミネーションが施されており、今年からは博愛社こども園の正門付近においても新たに追加されました。

寒さを吹き飛ばすようなきらびやかな光を見て、子ども達は大喜びでした。こひつじ乳児保育園でも同じく実施され、笑顔が生まれていました。春には、正門からの「桜の通り抜け」を予定しており、地域の方々に博愛社自慢の桜通りを愛でていただければと企画中です。【川田 誠】



幻想的な雰囲気のごども園

博愛社の創設初期からその事業を支えた一人に前田英哲という人物がいる。博愛社にとって勝之助や林歌子、実之助らと共に重要な存在であった。前田は赤穂郡矢野村に生

を享け、医学を志し神戸医学校を卒業し、生涯医学に従事した。一八八九年か九〇年頃に神戸多聞教会にて長田時行から洗礼を受けている。ちょうど勝之助が博愛社を構想し創設する時期と重なり、神戸医学校の同窓の誼もあり、博愛社創設前後より彼の事業を助けている。

前田は一八九一（明治二四）年から合併した岡山孤児院の医局に赴任する。同年一〇月の濃尾大震災では勝之助や実之助らと被害者の救援

にあたった。その後前田は岡山孤児院を辞職し、故郷に近い揖保郡揖西村字竹方を住居とし、その地で医学に励むこととなる。

勝之助との関係は博愛社創設のみならず、彼が亡くなった時、遺言通り死体の解剖を前田が担当し、永久に彼の心臓が残されることとなる。

九四年三月には大阪の阿波松之助宅に博愛社は移り、地理的に前田とは離れていく。故郷での最後の晩餐会の記録では「本日故社長の心臓のアルコールヲ換へし。前田英哲氏アルコール二瓶寄付」とある。

博愛社の歴史探検 [35]

医師 前田英哲という人物

また勝之助召天十年の記念には「故小橋勝之助君を想ふ」（『博愛月報』四〇号）という文章を書いている。そこで「抑も初め君と共に医学の門に入りてより終に君が遺体解剖の刀を執り墓標を建つるに至る其間の事歴一として感慨の種

ならざるはなし」と述懐している。また阿波家から現在の地（神津）に移って「栄を顕はし漸くその目的希望を達するに庶幾からんとす謂ふに空しく寒村の孤墳に朽ちんとするも生命の血は永久に循環す

大なる学問なり、と記している。『博愛の園』二五八号（一九二九年七月）に「社員前田英哲氏を弔す」という論文があり、去三月二七日の朝、突然倒れ、同日七五歳の生涯

べし」云々と勝之助の精神の不滅を述べている。その勝之助の言葉、①人の自営自立して一家をなすは大事業なり②人は自ら額に汗して口を糊すべし③人の事業を成す間には左の階級を経べし、初め笑われ次に譏られ次に悪まれ後に信ぜらる

べし④精神を修養して腹を立てざるに至るは大なる学問なり、と記している。『博愛の園』二五八号（一九二九年七月）に「社員前田英哲氏を弔す」という論文があり、去三月二七日の朝、突然倒れ、同日七五歳の生涯

を閉じたことが報じられている。彼は四〇年間、博愛社員として本社の為に尽力する一方、前田の性格はきわめて温厚篤実で「人を愛するの念厚く郷土に於て教育、衛生、其他公共のために尽された所、実に大なるものあり。また、推されて名誉村長となられたる事もあり」云々と追弔している。彼は多聞教会で洗礼を受け、「基督教の信念を其胸中に奥深く抱懷されたるが源泉となりたるものなるべし」と評されているように、多くの人々に人格的感化を及ぼした。前田は勝之助の精神を後世に残していく博愛社にとって重要な人物であった。

室田 保夫 関西学院大学名誉教授